

とっとりの若者による 政策提案会

 とっとり若者活躍局



とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

～ 2025.12.21 ～

1. 移住・定住、 関係人口創出



とっとり未来創造タスクフォース
MIRAI SOZO TASKFORCE

若手人材と教育現場との連携

移住・定住、関係人口創出

- 若手人材と教育現場が繋がる機会が少ない
- 教員が学生の課外活動をサポートする余裕がない

⇒ 教育現場における若手人材の活躍の場を創出することで、
ふるさとキャリア教育を実践し、将来的なUターンに繋げる

保護者や学校が安心・信頼して連携できる人材リストが欲しい

教育現場から、県内で活躍する
若手人材との繋がりを求める
ニーズ

既存の人脈からなんとか広げてお声かけしているが、
新しい人脈作りの時間的・心理的ハードルが高い

地域と学校の連携は進んでいるものの、
20～30代の若手人材とつながるきっかけがない

各分野のプロにスポット的にしてもらえる仕組みがあれば、
教育側の負担軽減と生徒の体験価値向上に繋がるのではないかと



県内外で活躍する若手人材を「見える化」し、教育現場とマッチング

「とっとり未来人材バンク」(仮称)

県既存事業(とっとり未来創造タスクフォース
やとっとり若者活躍局など)で活躍する人材
やその人材が有する経験・スキル



マッチング例

学校教育(出前授業、探求学習)

地域学校協働活動

中高生の課外活動

など



2. ライフステージに応じた 環境づくり

鳥取県だからできる「デジタルデトックス×婚活ツアー」

ライフステージに応じた
環境づくり

- 婚姻数の急減 R1:2,681組→R5:1,810組 △871組(△25%)
- 出生数の減少 R1:3,988人→R5:3,263人 △725人(△18%)

⇒ 新たな出会いのかたちを創出

デジタルデトックスをしてみたいと思う割合

したい
47%



若い年代ほど「してみたい」の割合が高い傾向

※ LINEリサーチ「LINEユーザーを対象にしたスマートフォンWeb調査」(2024年1月31日～2024年2月2日)に基づき作成

Netflix「オフラインラブ」が若者に大ヒット



デジタルデバイスを
すべて手放した男女の
恋愛リアリティ番組

U35交流会でデジタルデトックスを試行実施

・デジタルデトックスの考え方に注力
している「みたき園」を会場に開催
(智頭町と共催(R7.9))

・参加者の満足度**100%**

デジタルデトックスをテーマに、「鳥取ならではの」婚活イベントを実施できるのでは？

デジタルデトックス×婚活

都会疲れのある都市部をはじめとした県外や県内の30代以下を対象とした「デジタルデトックス×婚活」イベントを実施し、鳥取県の自然、魅力を存分に体験・再発見してもらいながら、交流を深める

新たな出会いの創出&鳥取県ファンの獲得へ



あなたにあった出会いを応援 であエールプロジェクト

ライフステージに応じた
環境づくり

- 価値観・ライフスタイルの多様化により、選択肢や出会い方も多様化している
- 子どもを連れてイベントやセミナーへ参加しづらい、新たな場に出向くハードルが高い

⇒ それぞれの結婚・家族のかたちの
ニーズに応じた支援を強化

多様な“結婚・家族のかたち”



多様なニーズに応じた支援の強化

えんトリー(とっとり出会いサポートセンター)で出会いを支援する「縁結びナビゲーター」を対象に、多様な結婚・家族のかたちについて、研修を実施。

「縁結びナビゲーター」同士で、情報・ノウハウ・事例を共有することで、支援の質を高める。



イベント・セミナー等における託児の配慮

県が主催する場合、事業のターゲットに応じて、キッズスペースの設置や託児の実施などの配慮を行う。

また、民間事業者等がイベント等を実施する際の託児設置に係る支援を行う。



自分が希望する働き方や子育て等の実現

ライフステージに応じた
環境づくり

- 性別役割分担意識の解消が必要
- 子育て等に関わる休暇制度はあるが、知られていない・使いづらい

⇒ 性別に関わらず自分が希望する
働き方や子育ての実現を

よりよい将来設計に向けた「夫婦未来デザイン」の推進

- ❑ 家庭における女性の負担大／共働き等による**コミュニケーション不足**
- ❑ 既婚者の94%が「夫婦関係は仕事に影響する」と回答
- ❑ 夫婦が自分たちの将来設計を
❑ じっくり話す機会が少ない



【企業向け】社員とその家族を大切にする企業風土醸成

①県内企業トップ向け

社員やその家族を大切にすることで企業の生産性向上を目指す組織づくりについてのセミナー開催

②県内企業社員向け

希望するキャリア形成や“共育で”実現に向けたパートナーシップの築き方についてのセミナー開催

【一般の方向け】夫婦を対象にした座談会の開催

ふたりの「ありたい家族像」をはじめ、家計や将来に対する考え方など様々な話題について専門家を交えて気軽に話すきっかけを創出



親子向けの多様な体験機会の創出

ライフステージに応じた
環境づくり

- 幼少期から地元企業や多様な大人と触れ合う機会が少ない
- 若者や子育て世代が防災を「自分ごと」として捉えにくい

⇒ 親子が自然と地元企業や防災に
触れる機会の創出

“親子”でリアル職業体験イベントの拡充・情報発信

- ❑ 親世代は、自身と関わりの薄い県内企業を知る機会が少ない
→親世代の県内企業に対する情報や印象がそのまま子どもへ影響
- ❑ 進路選択が現実的になる高校生より前の小学生、中学生の段階で
地域や地元企業などの多様な大人と触れ合うことにより地域と関
係を持ち続けやすい

親子で参加できるリアル職業体験イベントの拡充

県主催の大規模イベント等に併せて職業体験ブースを設置し、イベント
参加のついでに職業体験に触れながら県内企業を知ってもらう

職業体験イベント情報の集約化

行政や民間が開催している各種職業体験イベントを
「とっとり教育ポータルサイト」(*)へ掲載することで、
参加希望者の利便性向上を図る

(※)とっとり教育ポータルサイトとは、鳥取県内の様々な教育などの情
報にワンストップでアクセスできるウェブサイト



“まちなか防災設備”の体験・発見イベントの実施

- ❑ 遊び・イベントを通じて、防災が特別な訓練ではなく、日常の一部
であることを伝えるきっかけに

防災×遊びによる若者・親子へのアプローチ

「移動式遊び場」(車を活用した出張型遊び場)を活用し、
県内各地でキャラバンを展開。親子・地域住民が気軽に
参加でき、「遊びながら学べる」体験イベントを実施する。



3. 持続可能な地域づくり、 庁内改革

30年後の鳥取県をつくるための地域の基盤構築 (とっとり未来創造タスクフォース直営事業)

持続可能な地域づくり・庁内改革

若者とともに長期的な視点で地域の未来を考えながら、県内外で活躍する若者の発信や、様々な活動主体の交流促進をタスクフォース自らの事業として実践していくことで、若者が自分の人生や地域に対して行動を起こしていく機運の醸成を進めていく。

Tottori Mirai Base

※R7事業名「鳥取県30年後の未来予想図事業」

鳥取県のありたい姿をともに考える
『未来志向人材』を発掘・育成



<令和7年度実施内容>

- 県民メンバーとのワークショップを実施するとともに、自治体職員向けの新規事業立案ワークショップを実施

若者と一緒に創る！とっとり未来創造ラジオ

県内で活躍する若者の活動等を広く発信



<令和7年度実施内容>

- 鳥取県内の若者とともに鳥取県のありたい姿について意見交換し、今後の政策の種を見つけていくラジオ番組を企画・放送(コミュニティFM)

U35が繋がる！若者交流基盤創出事業

県内の若者が企業・団体を越えて交流する
イベントを実施



<令和7年度実施内容>

- 県内各地で20～30代の若者が集まる交流イベントを月一回程度開催

来年度の変更点等ポイント

多世代にわたる人材育成

県民や自治体職員を対象としたワークショップを継続して行うとともに、教育委員会と連携した中学生向けプログラムや高校の探求学習等と絡め、未来志向人材の発掘・育成や若手人材のネットワーク化を進めていく。

発信チャネルの拡充

これまでのコミュニティラジオ等を通じた発信は継続しながら、若者の利用者が多いショート動画やYouTubeを活用した発信手法等の強化を行う。

民間主催イベントの伴走支援

これまで好評であったタスクフォース主催の交流イベントは継続開催するとともに、地域で立ち上がりつつある若者をターゲットとした民間主催の交流イベントの自走化に向け、広報や運営サポートなどを行う。

- 県の情報発信に統一感がない
- 若者に情報が的確に届いていない

- ⇒ 県の各部局で情報発信の意識改革を実施
- ⇒ SNS活用の効果測定を実施

万博レガシーを継承した情報発信強化

「中の人」育成プロジェクトの継続

- ・若手目線で県主催イベント、周知したい制度等の情報発信を行う
- ・SNS発信に係る研修、成功事例や課題共有の場を設定

- 現状の情報発信では情報を届けたい人にリーチできていない
- 「中の人」育成プロジェクトは若手職員の人材育成の場として有効

若者に情報を届けたいが
届かない…
SNSでの発信が苦手…



- ✓ 若手職員にとって、情報発信の実践の場生まれる
- ✓ 若手職員同士の横の繋がりが生まれ、業務内外で相談しやすい体制づくりに繋がる

- 県民サービスを維持するため、人材確保は喫緊の課題
- 庁舎内に来庁者が気軽に立ち寄れるスペースがない

- ⇒ 県庁インターンシップ受入枠拡充と質の向上
- ⇒ 県庁をより開かれた場とし、公民の交流を促進

県庁インターンシップの受入体制強化

- ❑ 県庁受験者の減少
- ❑ 特に一部の技術・専門職で人材確保が顕著に困難
- ❑ 受入枠に上限があるため、参加学生の取りこぼしがある

県庁インターンシップ満足度向上プロジェクトの始動

「タスクフォース×久松下村塾をはじめとした若手職員」によるサポートチームを結成し、プログラムの質の向上を図る

- ・部局割当制の受入とすることで受入枠を拡充し、受入体制を強化する
- ・インターンシップ募集案内の魅力化
- ・若手職員目線による共通プログラムの企画・運営
- ・インターン参加学生への個別フォローアップの実施

- ✓ 若手職員の企画力・実践力向上
- ✓ 参加者の体験価値向上



公民共創スペースの創出

- ❑ 庁舎内には来庁者と職員が気軽に集えるスペースが少ない
- ❑ 今後、行政と民間がそれぞれの強みを活かして連携を強めていく必要がある

県庁舎 低利用・未活用スペースの活用

○第2庁舎 中2階ロビー

- ・テーブルやソファ等のレイアウト変更
- ・イベント、ワークショップ等への積極活用



○未活用スペース

- ・現在は封鎖されている屋上
- ・庁舎横の緑地公園



- ✓ 交流促進の仕掛けづくりと合わせて、若手職員主導で活用方法を検討